

目的 サングルローは沖縄県竹富島の仲筋に伝わる芸能で、島で最も大きい祭祀儀礼タドゥイ(種子取)に奉納芸能として演じられている。本研究ではサングルローの由来を調べ、変遷を知り、顔をかくしている苧麻の繊維と由来との関係を知ることにあつた。

方法 1987年10月、民俗芸能フェスティバルで上演されているのを見て参考にし、1991年1月には竹富島で古老から聞き取りを行い、同年11月16、17日には竹富島で種子取の調査を行い、サングルローを見、関係者から聞き取りを行った。

結果 1. 由来①、昔、竹富島にはきびがなかった。唐菰をした人が、きびが豊富に実っているのを見て竹富に持ち帰ろうとしたが、監視の目が厳しくてできなかった。そこで女性の大事なところに種を入れて唐から持ち出し、それ以後、竹富ではきびが豊かに実った。しかし、不浄の作物のため神にささげられず俵にして豊作を願った。俵がころがるのを表現している。由来②、人頭税時代に役人が行った成人の見分けを舞踊化したもの。2. 現在サングルローは仲筋から出す演目になっているが、以前は琉球間から出しそれは男性によって演じられていた(現在は女性)。3. 顔をかくしている繊維は苧麻を使用しているが、それは穀物のヒゲを表現し、衣料繊維としての苧麻に関する話は聞かれない。また顔をかくするのは女性が演じるようになってからで男性が演じていたころは使用していない。

以上のことから、由来には二つの説があり、踊り手も男性から女性に変化していることが分った。また、顔をかくしている繊維の苧麻と、サングルローの由来そのものとは結びつかず、単に女性の顔をかくすためのものであることも分った。